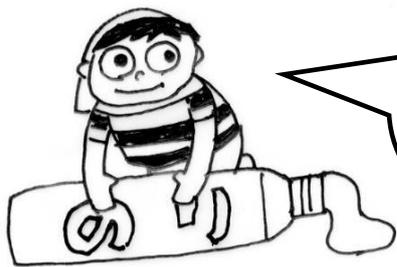


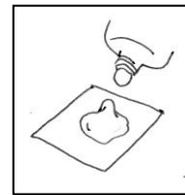
つける

かがくせつちやくざい ねんちやく
のり・化学接着剤・粘着テープ

1. のり（でんぷんのり）



くらしのなかで、
せつちやくざいが
いろいろなところに
つかわれているよ。

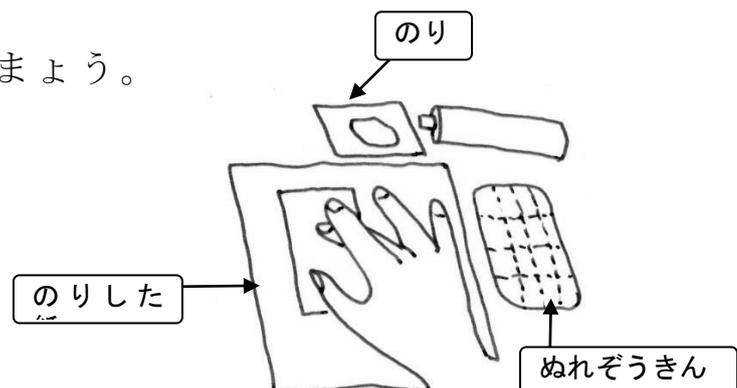


でんぷんのりは、はじめは「お米^{こめ}の^{つか}でんぷん」を使っ
ていました。

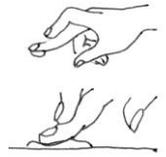
やがて、「小麦^{こむぎ}・じゃがいもの^{つか}でんぷん」も使われるよう
なってきました。くさり^{くすり}にくくする薬や「かおり」がくわえられ
ています。でんぷんのりはかわくまでに時間^{じかん}がかかります。

のり^{した}がみとして、ふるいしんぶんしやチラシなどの紙^{かみ}を、

なんまいか^{ようい}用意しておきましょう。



① ひつようなぶんだけ、紙かみの上に出しておきましょう。

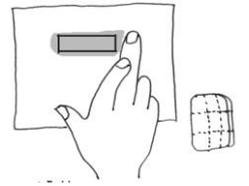


② のり下紙がみの上でのりづけをしましょう。

③ のりをひつようなぶん、中ゆびにつけましょう。

④ のり下紙まではみだすぐらいに、

かみにうすくのばしましょう。



⑤ おやゆび・人さしゆびをつかって、

紙かみのはしをもちましょう。



⑥ はったあとは、中心ちゅうしんからまわりへと

手のひらや指ゆびのはらつかを使って、空気くうきをぬくようにはっていきましょう。

・ はったあとにきれいな紙をのせて、その上から

こすってもよいでしょう。



・ 大きな紙をはるときは、のりを水でうすめてハケなどでぬりましょう。

☆ぬれぞうきん（ふるくなったおしぼりタオルなど）をかたくしぼって、

つくえの上よういに用意しておきましょう。

⑦ のりがかわいて、はったものがつくまで、洗濯せんたくばさみなどでとめておきましょう。



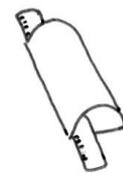
せんたくばさみ
で



クリップで
おさえる



わゴムで
おさえる



じょうぎで
おさえる

※そのほかののり（合成のり）

合成のりは石油を原料にしたものでつくられます。液体のりや洗濯のり、スティックのりなどがあります。

2. 化学せっちやくざい（木工用接着材など）

紙以外の木、皮、ゴム、プラスチック、金属などにつかうせっちやくざい
です。つけるものに合わせて、接着剤を選んで使しましょう。

☆せっちやくざいは、少しの量をつけて、生乾きの時につけます。

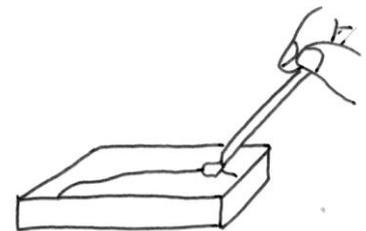
①木工用接着剤

・ゆびでのぼしてつけることもできます。

・小さな部分などにつけるときは、つまようじや細いへらなどで、少しの量をとってつけます。つかう量をかながえてつかいましょう。

☆服などにつかないようにちゅういします。

☆机の上はいつも整理してせっちやくざいがあちらこちらにつかないようにします。

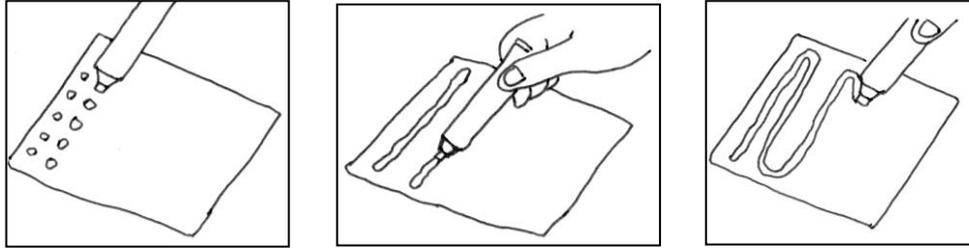


☆容器の出口は、いつもきれいにして、キャップをしっかりとめておきます。

②チューブ入りのせっちやくざいのつけかた

チューブのうしろをおし出しながらつけます。

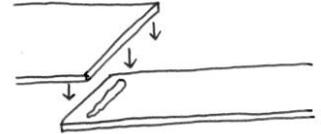
(せん・てん・めん) と、つけるものの形にあわせてつけていきます。



☆キャップをはずすときは、チューブをかるく

もって、キャップを上にもけてはずしましょう。

☆水性をのぞいて、^て手やゆびにはつけません。



3. ^{ねんちやく}粘着テープ

(セロハンテープ、ビニールテープ、紙ガムテープ、
など)

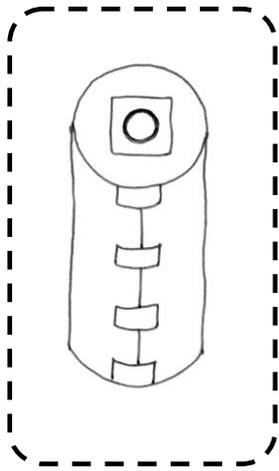
^{かみ}紙と^{かみ}紙の^あはり合わせにつかいます。紙だけでなく、ビニール、プラスチックなど、さまざまなものをつけたり、とめたりすることもできます。

むだにしないで
ただしく
つかおうね!

①セロハンテープ

- ・ゆびさきをきれいにしてからつかいましょう。
- ・できるだけみえないところにはりましょう。
- ・えのぐをつかうときにはつかいません。
- ・つけるものの^{すいぶん}水分やほこりをとってからつかいましょう。太陽の^{たいよう}光^{ひかり}にあたり、^{ながいじかん}長い時間はったままにしておくと、いたんではがれます。





ひつようなながさにきりましょう。

おなじくらいのがさにきりましょ

しっかりおさえましょう。

あいだをそろえてはりましょう。

- ・ はり合わせに使うときは、テープの上からよくこすり、
しっかりつけましょう。

☆いろいろなつかいかた

ストローにはりつけるときはすきまなくぴったりとはるために、片側を、ストローの下でぴったりあわせてはります。

長くつかうときは、はりながら進むとよいです。

せつちやくざいがかわくまで、はってとめておく。

ぬけないようにまいてはる。

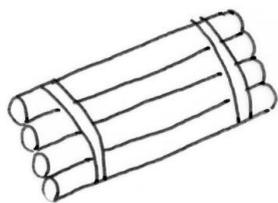
さきわれピンや、たまむすびがぬけないようにはってとめる。

② ビニールテープ、紙ガムテープのつかいかた

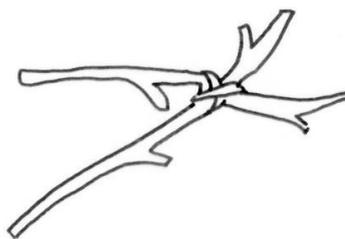
〈しぼる・まきつける〉

ぼうのような材料ざいりょうをしぼるときには、ビニールテープをのびしながらまきつけていくと、しっかりとまります。

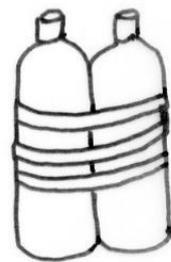
ペットボトルやビンなどにまきつけてもしっかりつきます。



紙づつをつなげる



木のえだをつなげる



びんをつなげる

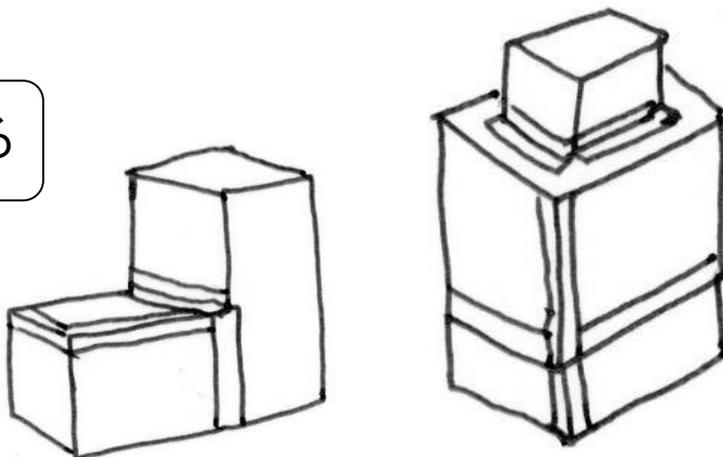
〈大きなものをつける〉

ダンボールなどおおきなものをつけるには、ガムテープをつかいます。

ガムテープをかさ重ねてはることはできませんが、紙にはしっかりとつきます。

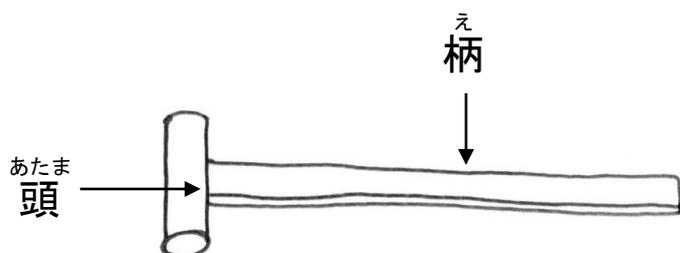
ぬの布ガムテープはかさ重ねてはる事ができて、木などにはってものは、そのままはがすことができます。

はこをつなげる



つける

くぎとかなづち



1. くぎ

^{てつ}鉄でできたくぎをおもにつかいます。

^{いた}板のあつさの2倍くらいの長さのものを

つかいましょう。



2. かなづちのつかいかた・くぎのうちかた

^{りょうくち}
(両口げんのう)

くぎをうちこむ面(平らな面)とうちしめる面(ふくらんでいる面)があります。

(かなづち)

くぎをうちこむ面(平らな面)と片方のさきが細くなっていたり、くぎをぬくためのくぎぬきがついているものもあります。

☆持ち運ぶときは頭の部分のすぐ下をもちましょう。

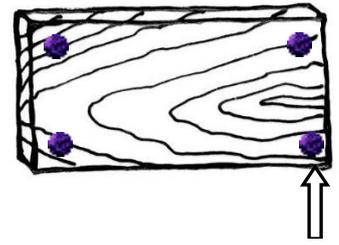
☆かなづちの頭の部分にぐらつきがないか確かめましょう。

①うつ場所をきめましょう。

木材のはしに近すぎるところに釘を打つと、木材が割れてしまいます。

かたい板やあつい板、われやすい板に

打つ場合は、きりであらかじめ穴をあけておきましょう。



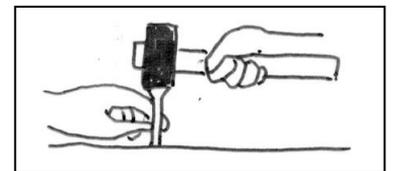
はじの方に打つと板がわれま

②くぎのうちはじめは、くぎをゆびでつまむようにしてもちます。

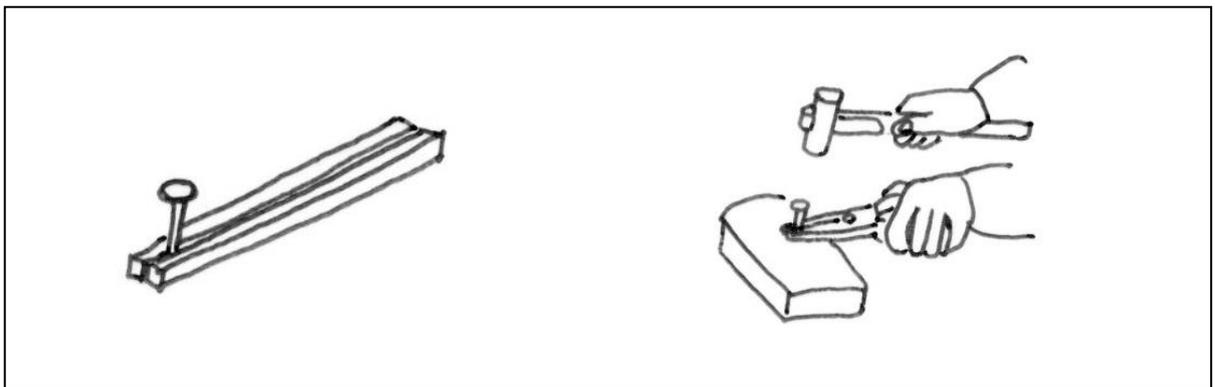
げんのうのたいらな面で、かるくトントン と

打っていきます。

このとき、かなづちの柄の中ほどを
にぎるようにしましょう。



・くぎを持ちづらいときは、ラジオペンチやわりばしをつかきましょう。

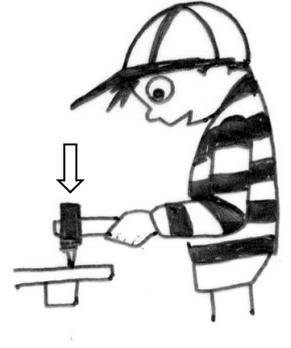


③くぎを持つ指をはなしてもくぎが立っている状態になったら、指をはなして最後までうちこみましょう。

ひじを中心に円をかくようにくぎにまっすぐ頭をあてましょう。

あまり力をいれず、くぎがまがらないように見ながら、

かなづちの重さを利用して打ち込みましょう。



④打ち終わりは、げんのうのふくらんでいる面で、

板をきずつけないようにして打ち、くぎの頭を少しめりこま

せましょう。